



TITLE:

太[平]洋地域の探検と開発(下)

AUTHOR(S):

小川, [琢]治

---

CITATION:

小川, [琢]治. 太[平]洋地域の探検と開発(下). 地球 1926, 6(4): 227-237

ISSUE DATE:

1926-10-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/183176>

RIGHT:

# 地球

## 第六卷第四號

大正十五年十月一日

### 太平洋地域の探検と開發 (下)

小川 琢治

葡人が東印度交通の鎖鑰を握つた間は蘭人の海上貿易政策も英人と同じく容易に目的を達し得なんだ。英蘭兩國の艦装した海上探検船が第十六世紀末まで主として北西及び北東通路の發見により北大西洋から東洋に到達せんと努力した理由はこゝにあつた。故にリンスホーテン Jan Hugen van Linschouten が一五八三年に葡國の艦隊に加はつて東亞の海岸に來たのは蘭人の東方發展の嚆矢と看做すべき事件で、その精到なる記載が西國の羈絆を脱せんとする氣運の鬱勃たる共和國民を刺戟したのは甚深で、一五九五年に喜望峰廻りとマヂエラン海峡廻りの兩艦隊が蘭國から派遣されその後者に日本に骨を埋めた按針井リアム、アダムスが參加してゐた。

西國が蘭人の活動を妨害せんと試みたのも當然で、蘭人も亦た西葡兩國商船を敵視し毎年澳門から輸送する貨物を鹵獲するに至り、海上の角逐が倍々露骨となつて武力を用ひる事を辭せぬに至つた。而して最初數年間の艦装した蘭國商艦隊はアムステルダム、ロッテルダム等諸港市の商人の箇々獨立した企圖であつたが、此の如き形勢となつたので聯合の必要を生じ一六〇二年(慶長七年)三

月二十日唯一の蘭領東印度會社を結ぶに至つた。その資本はアムステルダム商業會議所二分一、ゼーランド四分一、ムーズ地方八分一、北和蘭陀八分一を分擔し、約六百五十萬グルデンに上り、最初十數年間の利益配當は五六割に達すること多く、一六〇六年の如きは七割五分の好成績を挙げ得た。一六〇五年西國は蘭國(當時聯合州)の海外貿易を禁じ體刑を科することを宣言したが、それに頓着なく、同年五月コルネリス、マテリーフの引率する十一隻一三一七人より成る大艦隊を出し、一六〇六年更に七隻を出し、その翌年更に十三隻を出し、一六〇九年(慶長十四年)平戸に來つて商館を開き、又た英人が驅逐せんと試みたに拘はらず、チャカトラ(和稱チャガタラ)を會社の根據地として之をバタブ井アと呼んだ。徳川幕府が一六三九年(元和十六年)鎖國の禁令を嚴にし蘭支兩國人以外の外人を放逐するに及び、蘭人は平戸から長崎出島に遷り、一六四一年以後二百餘年間全く日本と西洋との間の貿易の利益を獨占した。

此の後尙ほ西蘭間の軋轢は續き、一六二二年は蘭人は澳門を襲ひ撃退されたこともあつた。然れども同年六月澎湖島を占領し、泉州の支那地方官と交渉の結果臺灣に退くことを約し、一六三二年今の安平にゼーランディア城を築き、次いで今の臺南にプロブキンティア城を築き領事を派遣し、臺灣南半はその占領に歸した。此の行動も亦た呂宋島マニラ駐在の西國總督シルブワの計畫した臺灣を根據とする日支に對する貿易政策と衝突するものであつた。西人は一六二六年臺灣北端の基隆港に上陸し今の港口社寮島に堡を築き之をサン、サルブワドルと呼び、港をサンティシマ、トリニダッドと呼び、又た淡水港に築城して之をサン、ドミンゴ城と呼んだ。蘭人は一六二九年直に之を

襲撃したが撃退されて一時手を収め、一六四二年終に大軍を興して全く西人を掃蕩し得て全島を占領することゝなつた。

蘭人の臺灣占領に先ち日本貿易船は南海諸港への中繼場として臺灣打狗港を利用しつゝあつて臺灣を高砂と呼んだ位であつたから、その占領後入港する日本貿易船に税金を課せんとするに對しては反抗したのも當然で、一六二七年(寛永四年)此の壓迫を被つた長崎末次平藏の御朱印船に對する報復が翌年濱田彌兵衛等私人の手で行はれて、日蘭間に葛藤を生じ、蘭人の謝罪で解決した。

葡西英蘭諸國の東亞に於ける競争が進行しつゝあつた間に、内亂と外患との爲めに支那に於ける漢人種の主權が動搖し始め、一六四四年(正保元年、崇禎十七年)終に北京は李自成の手に落ち毅宗は自殺し、續いて滿洲軍の北京入城となり、南方に偏安せんとした福王唐王皆な敗れ、鄭成功の福建の一角から北進せんとした努力も終に一簣の功を缺いた。此の成行は鄭成功を驅つて臺灣割據を策せしめ、一六六一年(寛文元年、康熙十八年)武力を以て蘭人を逐斥して暫く明朝復興の根據地とした。鄭氏の臺灣支配は二十二年にして遂に清國の版圖に歸し、二百餘年間に現在の狀態に發達し清佛開戰の際一時佛國艦隊が來襲した外は又た西洋各國の來り窺ふことがなかつた。

第十七世紀は蘭人が海上發展の極盛期であつたと同時に地理的探檢の歴史上に特筆すべき一大功績もある。それはバタブ非アから艦裝したアベル・ヤンソン・タスマン Abel Janszoon Tasman の南大陸探検で、一六四二年八月同港を發し、十月モウリチウスに達して轉じて東に向ひ、十一月南緯四二度半の處で高地(今のタスマニア)を發見してブワン・デーメー陸 Van Diemen Land と呼び、

更に東に向ひニュージールランドをも發見して、之をスターテン陸と呼び、是より北進してフレンジリ諸島のトンガタブ島に觸れて歸り、初めて濠洲が南大陸の北に突出した一角でなくて四面海に圍まれた一大島嶼であることが確かまり、又た太西洋西南部に星羅棋布した孤島の群があることもこの航海によつて彌明かとなつたのである。

此のワスコダ、ガマ、コロンブス、マヂエランと共に四大發見と認められたタスマンの成績に比し得る海上の大探検は英國の派遣したクック James Cook の三回の航海（一七六八—一七七八年）のみである。その第一回の探検はタヒティ島に於ける一七六九年六月三日の金星の太陽面經過觀測の目的で派遣され、初めてニュージールランド及び濠洲東岸を精密に調査し、英國の基礎を建て、第二回は一七七二年南洋の探検を目的とし、南緯六〇度と七〇度との間で南極大陸の周邊を週航し、久しくお化けの如く地理學者を悩ました南方大陸の真相を曝露した。その最後の旅行は一七七六年より三年に跨がつた太平洋の探検で、ケルゲレン島を見舞つた後太平洋に出てソサイタイ諸島を發し赤道を越えて北進して布哇（サンドキッチ）諸島を發見し、東に轉じて北米洲の西岸に達し之に沿ひ北進してベーリング海峡を過ぎて北氷洋に出で、氷に鎖されんとしたので引返して、終に布哇島で土人との葛藤の犠牲となつた。

カピテン、クックの航海の純然たる科學的探検の嚆矢と看做されてるのは勿論であるが、而かもこの英國探検船の艦を追ふて濠洲ニュージールランド、ニューギニアその他太平洋（ポリネシア）の諸島の占領と殖民とが行はれたのも事實である。而して蘭人が先づ發見した所が英人の手に落つるに

至つた徑路を見るに、英人ダンビア一六八六、九九年の二回の探檢に始まり、ダンビアは濠洲の西北岸を見たので「世界中で最も不毛の地」であるといひ、不毛の地といへば高處に森林も草原もあり、平地や谷間にと之に伴ふた博物學者デヨセフ、バンクスは不毛とはいへば高處に森林も草原もあり、平地や谷間には草木の暢茂した處もあるといひ、北米合衆國の獨立により失つた罪人流謫の殖民地を要するに當り、クックとバンクスの提案が容れられて今のシドニー（クックのボタニー灣）が英人の最初の移住地となつた譯で、多くの新發見地に對して黄金の夢が見つかつた如く誇大に報告されるのと全く異つてゐた。

濠洲殖民の發展は第十九世紀の首に始まり、フリンダースの洲週航（一八〇一、三年）後シドニーから、山嶽の險を突破して、高原に出でんとする探檢家の努力によりマックオリー、マレー等の諸河が發見され、ミッチェル（一八三五、六年）の探檢により西ブ井クトリアが開發され、メルボルン市が出来て十年ならずして沃饒な平地が殆んど盡く牧羊場になり、西部の豊富な金鑛床の發見は一八四八年で、第十九世紀後半に最も不毛の地と看做された部分に蜃氣樓の如く鑛山が勃興し、一八五一年以後に移民の殺到を見たのである。

植民帝國としての葡西兩國の勢力が衰退し第十七八世紀を通じて蘭英兩國の角逐となり、終に英國が最後の勝者となるに至つた原因の一半はその本國に於ける政治上の變動に在つて、特に第十八世紀末に起つた佛國革命が歐洲諸國の勢力の均衡を破り、蘭國は名は佛國と同盟を結び實はその支配を受け、爲めに伊國の敵國たる英國は蘭領植民地の大部分を占略し、英國のみが無競争の植民帝

國となつたのである。

西歐諸國の海上探検が始つた頃北歐には新たにモスコブ<sup>モスクワ</sup>（即ち今の露國）が勃興して、元朝以後西北亞細亞からドン、ツルガの諸河域まで蔓延した韃靼民族の勢力を歐洲から逐斥する氣運が起つて、ウラルの豪商ストロガノフ家から派遣したコサツク隊長エルマツク Yermak の東侵となつて、トボリスク（一五七八年）トムスク（一六〇四年）ナリム（一五九六年）の創立を見た。第十七世紀に入つてその東進倍疾く一六一〇年エニセイ河口に達し、一六一九年エニセイスクを建て、一六二七年クラスノヤルクス、一六三二年ヤクツクの創立を見、一六三九年にはオホツク海岸に來着し露人の歐亞大陸北部克服の時期は恰も滿洲人が明朝を滅して支那四百餘州を統一しつゝあつたのと同じであつた。その日本との交渉を生じたのは更に百年を経て八代將軍吉宗の元文四年（一七三九年）にオロシヤ船の房州に來た頃に始まるが、亞細亞東北岸は露國海軍に用ひられた丁抹人ベリリ<sup>ベリリヤ</sup>の探検により明かとなり、一七二八年のシベリア北岸の航路を取りその名で呼ばるゝベリリヤ海峡を通過して太平洋に出で、北米洲と亞細亞との關係が初めて決定された。

第十七、八世紀の間に露國の版圖となつた支那帝國の北邊に接した地方はアルタイ、サヤン及びその東の黒龍江の上流支谷に切られた山地で、匈奴、突厥、拓跋魏、蒙古等の支那を征服した民族の興つた處で、清朝の衰滅に近づくに従ひ露國は倍東方に進出し來り、終に一八九一年にシベリア鐵道の起工式が浦鹽港で舉行され、三年目に東部の開通を見、更に十年の後全線の完成すると共に露國は遼東半島から更に朝鮮半島をも占有せんとするに至り日露兩國の衝突を惹き起したのである。

此の從來の經過から推せば現在の中央政府の統轄力を缺いた中華民國に對するソビエツト共和國の勢力の浸潤が如何なる風雲を捲き起すか、東亞の將來は張目して視る必要がある。

太平洋海岸に於てコロンブスの新世界發見後に歐洲植民國の勢力範圍も亦た一消一長して今日に及び、現在の兩米洲の政治區劃は四百餘年間に行はれた競争の結果である。

コロンブスの跡を追ふて西來して足場を定めた西國人は北米の墨士哥灣の沿岸中米及び南米の西北部一圓に亘り、その發見後三十餘年に追跡した太平洋岸は本誌第一五六頁に掲げたロペロの地圖に見る如く、一五三四年メンドサの探檢によりカリフォルニア灣が發見され、一五四二年ガブリロの探檢により北緯四〇度半のメンドチノ角まで知れ、一六九七年からデユス非ット宣教師の手で初めて下部カルフォルニアを開きロレト Loreto が建てられた。然るに一七六七年西國チャールス三世は之に退去を命じてフランシスカン派僧侶に引渡させ、後又たドミニカン派僧侶が之に代り、フランシスカン派僧侶は北方の上部カリフォルニアに遷り、今のサン・フランシスコを中心として數多の布教所を設け、北米洲西岸の最も豊饒なる土地は西國人の手によつて開發され始めたのである。

カナダの西岸に於ける探檢は更に晚く一七七四年クワドラの發見にかゝり、一七九二年デオルヂ、ブワンクープワの週航により島嶼たることが明かとなり、クワドラ島と呼び、終に後者の名が一般に通用さることゝなつた。而してその開發は一八四九年にハドソン灣會社十年間の租借權をブ井クトリア女皇より獲、一八五九年から植民地 Colony となり、一八六六年に英領コロンビアに合



併され、一八八五年カナダ鐵道の終點となつて急に繁榮し始めたのである。

更に北方のアラスカ地方はベーリング、クツクの探檢後露人の占有に歸し、一七八四年アリユーシアン諸島のコヂアツク島に貿易出張所を設け、一七九九年に露領アメリカ會社がシトカに出張所を設け、一八六七年に至り露國は百四十四萬磅の代價を得て合衆國に譲り渡された。

西國の中米を中心とした新世界の開發者の第一人はヘルナンド、コルテズで一五一九年墨西哥移民を指揮し、一五二一年國王モンテズマを捕へて一大國を征服し、鑛業及農業を興し、その第二人はフランシスコ、ピザロで、バルボアと共に太平洋を發見した後、クスコを首府としたエクワドルから智利に至るインカ民族の大王國の征服を企て、アマルグロと共にバナマから出發し第一回は一五二四年北緯四度の地點まで達し、一五二六年南緯四度一七分のブランコ角に到りて目的の黄金國に達し、一五三一年サン、マテオ灣に上陸し、火器と駿馬で威嚇して三萬のインカ軍を一蹴し、一五三三年にはクスコに達し、一五三五年にリマ府を建て、ピサロと反目したアマルグロも亦た智利を征服した。此の兩人は文字通りの「冒險家」で、土人を虫豸の如く虐殺した非難を免れなだが、コロンブス發見後四十年ならずして新領土を開拓して西領米洲の大植民帝國を創設した慄悍果決の快漢たるを失はぬ。我が豊徳兩氏の歐洲との交通が墨西哥及び西國を経由して更に羅馬法王廳に往つたのも亦た西國の植民帝國として盛運の極に達した此の時期であつた。

太平洋の對岸一萬軒に亘る兩米海岸線が此の如く西國の版圖に屬すること二百餘年の後、アングロサクソン民族が代つて勢力範圍を擴張するに至つた轉回の時機を劃するのは一八二二年の墨西哥

の獨立で、上部カルフォルニアに取り殘されたフランシスカン派教徒の植民地が彼等の食指を動かす好餌であつた。而してその先驅を成したのは日本に知名のペルリ提督で、一八四二年桑港の南百餘軒のモンテレー灣に米國々旗を樹て、直に間違であつたとして之を引卸したが、一八四六年科學的探檢家の筈のフレモントが武裝した騎兵隊を組織してサッターズフォート(今のサクラメント)に據り、モンテレー灣に來た合衆國艦隊は再び國旗を樹てゝ占領を表し、カリフォルニアの獨立とこの合衆國所屬の一州とする兩宣言が發表され一八四八年に墨西哥國との正式の條約が出來た。此の條約成立と殆んど同時にサッター河に豊富な金鑛の出る評判が起り、サン、フランシスコの住民は殆んど狂人の如く産金地に流れ込み、秩序を維持する爲めに派遣された軍艦の水兵までも脱走して砂金掘りとなる騷動となつた。今や之に次いで農業地として開拓され、又た州の南半に石油鑛が盛んに採掘されて「黃金門」Golden Gate なる港口の名は事實の表徴となつた。

北米洲西岸の發展に必要な交通機關は「太平洋鐵道」Pacific Railways の敷設で、その第一線は一八六九年 Union と Central の兩會社が東からと西からと大鹽湖の東岸オグデンに於て連結しその西端の終點たる桑港が世界貿易及び交通の要津となつた。その後加奈陀の太平洋鐵道も開けてブワンクーブワが第二の要津となり、又た墨西哥にはテワンテペック鐵道が出來て地峽を横斷する交通が開け、最後に合衆國の手で佛國から權利を譲り受けたパナマ運河が一九一四年八月十五日に開通して合衆國の東西兩岸の海上交通線が簡單に連絡し、海陸兩路による合衆國は太平洋岸に於いて倍優越なる位置を占めることゝなつた。

太平洋上に於ける合衆國の勢力の發展は一八五二年ペリ提督の艦隊の東亞海上に來た時から始まり、五十年の後西國葛藤の機會に乘じてキュバ島と共にフヰリッピン諸島を占領し、同時に布哇島の併合（一八九八年）を宣言し、太平洋を横斷して東印度諸島と臺灣との間に介在する大島群に勢力を延ばしたが、パナマ運河の開通、海軍の大擴張とこの領土の擴張との並行して躍進する現勢は殆んど向ふ所前なしといひ得る。

全く海外に領土を有せなかつた歐洲の強國は獨逸で、ビスマルクの一八七〇年以後獨逸帝國の經營に成功するに及び一八八四年に至り初めて英佛等の間に割り込んで弗洲に植民地を開き、又た赤道兩側の太平洋の諸孤島とニューギニアの東北岸を占領して、太平洋上の一勢力とならんとした。然るに一九一四年の世界戦争を起した結果として弗洲の領土は英佛間に、太平洋の領土は日英間に分割して占領せられ、ブエルサイユ條約により悉く喪失してその勢力は太平洋上から一掃され、その壽命の短かい點は葡蘭諸植民帝國の末路よりも見じめであつた。

以上述べ來つた太平洋を舞臺とした民族の活動の歴史の最後の頁たる現在に就て更に一言すれば今尚ほ牢乎たる足場を築き上げて之を維持するものは英國で、此の頃シンガポールに軍事上の施設を興さんとする國論が盛んとなつたのは此の西方の關門の鎖鑰を嚴にせんとするに外ならぬ。然れどもその表面の論據とする所は我が邦の侵略に對する防備であつて、是は恐らくは口實に過ぎずして、内心は對等の海軍力を有する米國の西侵が頭痛の種となつてゐるとしか想へぬのである。英國の世界的大帝國の版圖を維持せんとする第二の脅威は陸上より加はる露國の壓迫である。世界戦争

當時獨逸人は口癖の如く英國の獨逸包圍政策を説いたが、英國の最も露骨に執つた包圍政策は地理上の關係から起つた露國の侵出に對するものであつて、勞農共和國の出現を見た今日の對策は以前よりも一層面倒となつて來てゐる。

之を要するに太平洋上に顔を出した三大植民帝國が各異つた徑路を辿つて現狀に發展し來つたもので、各長所と短所があるから、若し將來衝突を見るときでも從來輸贏の決した如き成行になるか否かは全く想像がつかぬ。(完)

## 堺市四近鑿井地質

上 治 寅 次 郎

一、文獻 堺市地質に關しては地下水、港灣に關し數種の資料がある。ウィリアムガウランド堺市地下水調査(明治十六年)、エドモンドナウマン堺市街井水改良案(明治十六年地質調査所年報第一號)理學士佐藤傳藏氏地下水調査(大正三年地質調査所報告第四七號)、工學博士小川梅三郎氏及大阪府技師矢野藤太氏港灣調査(大正三年)工學博士比企忠氏堺市上水道鑿井地質調査(大正八年)。以上の多くは堺市役所に保存されてゐる。

二、鑿井 右の文獻以外に資料に供した鑿井材料は次の八個である。